

(10) 蕨駅西口新図書館移転に係る検討状況について

参考 新図書館に関する一般質問

令和5年9月定例会 一般質問

発言議員：山脇紀子議員

答 弁 者：渡部幸代教育部長、頼高英雄市長

質問要旨：現図書館の移転後の利用について

- (1)現在の図書館の耐震性や図書館移転後に使用することについての課題は何か
- (2)文化芸術施設の利用についての検討はどうか
- (3)児童書コーナーや読み聞かせスペースを残して、子どもたちが本にふれあえる場所を残す考えについてはどうか
- (4)南町地域への分館設置についてはどう検討が進められているか

(登壇)

質問内容：現図書館の移転後の利用について質問します。市立図書館設置及び管理条例では、南町にある本館及び塚越分館、錦町分館、北町分館の3つの分館を教育委員会が管理すると定め、図書館の行う事業として、資料の収集・整理、市民への提供、読書案内とレファレンスサービスの向上、読書会などを主催し、奨励すること、学校や公民館などと連携することなどを定めています。市立図書館は1951年8月、中央公民館に児童図書館を併設し、その後、1965年に開館。1976年6月10日に現在の南町に移転をしました。現在の図書館は44年が経過をしています。蕨駅西口地区市街地再開発事業の公共公益施設において、図書館と行政センターが整備されることになりました。書庫が限られてしまっていたり、44年以上経過した建物の老朽化、学習スペースの拡大、開館時間の延長など、多くの課題を解決する方法として、駅前への図書館の設置はとて素晴らしいニュースです。しかし、南町の市民の皆さんからは、44年ずっと南町にあった市立図書館が駅前に移転してしまったら南町はどうなるのか、現図書館はどうなるのか、ぜひ分館や返却ボックスを設置してほしいとの要望が多く聞かれるようになりました。また、市民の方からは、現図書館を残して、文化芸術の拠点として、美術展示などをしてほしい、こういった要望も出ています。

そこで1点目は、現在の図書館の耐震性や図書館移転後に施設を使用することについての課題は何か、お聞きいたします。

2点目は、市長マニフェストにも市民要望として掲げられました文化芸術施設の利用についての検討とありますが、どのように進めていくお考えか、お聞きいたします。

3点目は、蕨市立図書館の特徴として、児童書が大変充実していることにあります。児童書コーナーや読み聞かせスペースを残して、子どもたちが本に触れ合える場所を残していく考えについてはどうか、お聞きいたします。

4点目は、現在の図書館の施設を利用できるならば、分館として設置もぜひ検討していただきたいと思います。南町地域への分館設置についてどう検討が進められているのか、お聞きいたします。

（渡部教育部長）

答弁内容：現図書館の移転後の利用の1点目、現在の図書館の耐震性と移転後に使用する上での課題についてであります。耐震補強工事を平成30年度に実施し、耐震基準を満たしていることから、耐震性については問題はないものと考えております。しかしながら、現図書館は昭和54年の落成から40年以上が経過していることから施設の老朽化が進んでおり、建物本体の長寿命化が必要であること、また、エレベーターや自動ドア、空調設備等のリニューアルが必要であること等に加え、転用後の用途に応じた改修が必要になることを勘案しますと、財政的な負担は大きな課題であると考えております。

次に2点目、文化芸術施設の利用についての検討であります。教育委員会といたしましては、現図書館の跡地の使途は、文化芸術の拠点にふさわしい活用方法を関係各課と協議し、市の方針に沿った計画を立案してまいりたいと考えております。

次に3点目、児童書コーナーや読み聞かせスペースを残して、子どもたちが本に触れ合える場所を残す考えについてであります。児童書が充実しているという蔵の図書館の特色を受け継ぎ、新図書館には魅力ある子どもエリアを設置する予定でありますので、現図書館にある児童書は全て新図書館に移管する計画であります。しかし、現図書館の児童書コーナーを残してほしいというご意見があることも認識しておりますので、今後、移転後の施設活用の中での検討課題としてまいりたいと考えております。

次に4点目、南町地区への分館設置についての検討についてであります。現状、具体的な場所は決定しておりませんが、南町分館の候補地として考えられる南公民館と交流プラザさくらの2カ所を現地視察し、他の分館の機能にある予約された図書の受渡し業務ができるかどうか、また、返却ボックスを設置できるスペースがあるかを確認いたしました。引き続き、他の候補地も併せて比較し、分館としての機能を十分果たせる施設へ設置できるよう検討してまいります。

（再質問）

質問内容：現在の図書館が移転するということで、あの施設を残すとなると、長寿命化の必要性、あとはリニューアルに財政的なかなりの負担があるということでご答弁をいただきました。耐震性には問題がないということでした。そうすると、もしあの施設をそのまま残して、別の施設に転用するとなるとかなりのリニューアルが必要だと思いますが、そのリニューアルをするための予算は、今現在どのぐらいの金額が考えられるのかお聞きしたいと思います。

(渡部教育部長)

答弁内容：まず建物が建ってから相当年数がたっていて、実際に屋根部分ですとか外壁等の修繕はこれまで大規模なものは行ってきておりませんので、そういった建物の長寿命化に関しましては大規模な設計をした上での積算ということになりますので、そちらは今現在、把握することは困難かと思いますが、今ある設備等は、エレベーターですとか、自動ドアですとか、空調につきましても、一番最初に入ったときのものを使っているという状況でありますので、こちらを新しいものにリニューアルした場合には、今現在、エレベーター、自動ドアにつきましても、それぞれ毎年保守業者のほうにさせていただいて、いざ何かあったときは細かい部品の交換等に対応できるということなんですけれども、もうしばらくたった場合には、長期間の運用による故障のリスクも高まっており、部品自体が調達できなくなったりということもありますので、リニューアルのご提案をいただいているところです。実際にはエレベーターのほうは約600万円、自動ドアのほうも約200万円程度かかるのではないかなというふうに伺っております。空調につきましても、今、ボイラーによるガス空調を利用しているんですけれども、それを全取替えという形になると、やはり億単位の費用がかかってくるのではないかなという見込みですので、実際には室外機のついた個別の業務用エアコンの設置を想定した場合ですと、約1,500万円程度かかるというふうに伺っております。

質問内容：分かりました。施設を維持する、リニューアルすると、それだけの施設を維持するだけで、最低でもそれだけで、外壁などもこれからあると思うんですけれども、図書館は最近でも雨漏りで大変苦労していると思うんですけれども、過去の雨漏り改修の図書館での実績について、お聞きしたいと思います。あと、この施設を仮に文化施設として運営をしていく場合なんですけれども、どのくらいの職員体制ですとか、あとは年間運用していくにはランニングコストがどのくらい考えられるのか、お聞きしたいと思います。例えば、歴史民俗資料館がありますけれども、あの程度の規模での職員体制、あとはランニングコストがどの程度かかるのか、お聞きしたいと思います。

(渡部教育部長)

答弁内容：まず1点目の雨漏りに関して、これまでどれぐらい修理にかかって、修繕をしてきたかというお尋ねですけれども、直近10年、実際には屋根部分、トップライトのシーリング施工、雨漏りというか、水が出てきたところの上にシーリングをかけるような形でやってまいりましたけれども、これには61万6,700円を支出しております。2点目のもし現図書館の跡地が文化芸術施設となった場合の参考として、現在の歴史民俗資料館の職員数とランニングコストというお尋ねですけれども、現在、歴史民俗資料館は正規職員3人のうち2名が学芸員、1名が事務職員となっております。そのほか、会計年度任用職員として、学芸員1名の計4名が勤務しております。また、ランニングコストなんですけれども、令和4

年度の決算で申し上げますと、人件費を除き2,126万円となっております。主な支出内容としては、報酬に約203万円、需用費に685万円、各種委託料に1,011万円を執行しているところでございます。なお、今年度の当初予算につきましては2,286万円を計上しております。

質問内容：分かりました。ありがとうございます。2,000万円ぐらいのランニングコストがかかるということをお聞きしました。あの施設を何の文化施設として残していくのかはこれからのいろいろな検討だと思うんですけども、やはり市民の中には美術館のように美術の展示をしてほしいという声もあるというのも聞いています。現在の図書館の施設を、やはり南町にこれまで40年以上、そこにあった施設をぜひ残してほしいという声も聞いていますけれども、これまでいろいろ分館の議論もしてきましたけれども、想定していたのは、やはりあの施設はリニューアルするのにもお金がかかるし、あの場所にこれから維持するのもお金がかかるという中で、公民館ですとか、交流プラザさくらですとかの検討も併せてしていただいていたわけなんですけれども、現在の施設を残すというのであれば、やはり南町分館は文化施設の一角に残すというのが一番いいのではないかなと大いに考えられると思うんですけども、今まで公民館ですとか、交流プラザさくらでもいろいろ見てきたんですけども、やはり分館としてのスペース、本を置く場所のスペースのなさが課題でもありましたので、やはりあそこの現図書館に分館として残すのが一番いい方法ではないかなと思うんです。やはり開館時間が問題になって、本館は午後9時ぐらいまで本の受渡しができるのがベストだとは言われていますけれども、もし現在の図書館に残すとなれば、午後5時までの受渡しでもいいのではないかなと。市民の理解が得られるのではないかなと思うんですけども、現図書館に分館を設置するという考えについては、その選択としては考えられると思うんですけども、どのようなお考えか、お聞きしたいと思います。

（渡部教育部長）

答弁内容：登壇でも申し上げましたとおり、現図書館の跡地の使途につきましては文化芸術の拠点にふさわしい活用というのをこれから関係部署と共に協議、検討していく方針でございます。現図書館に南町分館をとということなんですけれども、そういった機能を残せるかどうかも含めて、移転後の施設の活用の中で検討課題とさせていただきたいと思います。

質問内容：ぜひよろしくお願ひしたいと思います。最後に、図書館の問題については市長にお考えをお聞きしたいと思います。現図書館を、絵を飾ってほしいですとか、文化芸術施設の拠点として残してほしいというお考え、いろいろタウンミーティングやそのほかでも市民の皆さんからのそういった声を聞いて、市長はマニフェストに、あそこを文化芸術施設として残すということで検討するということで掲げられたと思うんですけども、あそこに残るならば、南町への分館の設置もあそこに残してい

くことも大いにあり得ると思うんですけれども、文化芸術施設の利用と、あとは南町分館をあそこに残すという考えについて、市長のお考えをぜひお聞かせ願いたいと思います。お願いします。

（頼高市長）

答弁内容：今回、現図書館のその後の利用の方向について、私の新しいマニフェストで、文化芸術の拠点としての活用を検討していくという方向性を打ち出させていただきました。図書館については駅前再開発の中に移転をして、開館時間も長くして、今までの児童図書の充実した特色も生かしつつも、さらに仕事帰り、あるいは学校帰りの方々も非常にアクセスがいい場所になるので、今まで以上に利用しやすい図書館として整備していこうということで今、取組を進めております。課題として、その後の図書館がどうなるのか。これはもちろん皆さん、関心をお持ちでしょう。市として、公共施設の総合管理計画の中で総量抑制という方針もありますので、それとの関係。抑制という点でいえば、廃止して、更地にしてということが一番少なくなるわけですが、そこからいろいろな活用方法、いろいろな幅がある中で、これから具体的に検討していくに当たって、やはりここは市長として基本的な方向を示す必要があるだろうということで、今回、中身はこれからの検討なんですけれども、40年以上にわたって、図書館という1つの教育施設として利用されてきた経過を考えると、あるいは、あの図書館は地元の方にいろいろなご協力もいただいて整備されてきた経過を考えると、さらに、蔵は河鍋曉斎美術館であったり、文化協会会長の智内先生であったり、非常に著名な芸術家も多く、また、それと相まって、市民の皆さんの市展をはじめとする文化芸術活動も非常に充実していますけれども、それを飾る展示の場所がなかなかないと。以前は、市展は中央公民館のロビーで、今は文化ホールくるるも使っていただいていますけれども、やはり期間も限られているという中で、それにふさわしい施設としての活用ということが文化のまち蔵としては一番ふさわしいのではないかと。もちろんいろいろなクリアすべき課題があるわけなんですけれども、そういうことが一番ふさわしいと判断して示させていただきました。ですから、今いろいろご質問いただいたとおり、何せ今の建物、雨漏りという大きな課題があったり、いろいろ直すべき点もありますけれども、将来の方向としては、やっぱりメインとなる活用方向を検討するというのがまず必要になると思うんですね。その上で、今ご提案いただいた南町の分館の在り方とかというのは併せて検討していくと。あるいはその活用方法も、市が市の施設として直して使っていくのがいいのか。あるいは、民間の力も借りて、最近レンタルスペースとか展示場とかいろいろありますけれども、どういうスタイルが一番ふさわしいのか。いろいろな角度でまさにこれから検討していくことになりますので、今の時点では、分館についてもはっきりしたことを申し上げる段階にはないんですけれども、ただ、再開発は竣工の時期があります。それに並行して検討していくわけなんですけれども、実際に着手できるのは、図書館が移転してから、いろいろ実際のこ

とをやっていくことになることを考えると、私は分館については、基本的には今、検討しているように、今の図書館ではない場所をまずは検討して。

今までと比べると、特に南町地域の皆さんにとってはいろいろ機能低下という懸念もありますけれども、最近はインターネット予約等も進んでいますので、そこは工夫しながら。今もう既に場所を検討していますけれども、そこはまず検討していただきながら、図書館の文化芸術拠点としての検討の方向が見えてきたときに、場合によっては一定のスペースとして可能だということであれば、それも俎上に上ってくるのかな。今の時点ではそんなふうに考えていますので、よりよい文化芸術拠点としての活用の在り方をいろいろな方々のご意見も伺いながら、検討を進めていきたいなというふうに思っています。

質問内容：ありがとうございます。いろいろクリアすべき課題などもある中でこれからの検討だと思いますが、ぜひ南町分館も現図書館に残せるならば残してほしいということを要望いたしまして、この質問を終わりたいと思います。